

研究協力をお願い

昭和医科大学では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

VR教材を活用したストレッチャー移送の教育効果に関する検証

1. 研究の対象および研究対象期間

対象は、2025年度に昭和医科大学保健医療学部看護学科で開講し、基礎看護学方法論Ⅱを受講した皆さんです。

2025年度に基礎看護学方法論Ⅱ「活動の援助技術：ストレッチャー移送」の演習前後にGoogle formを通じて、提出していただいた課題結果を使用させていただきます。

課題結果について、2028年3月31日まで解析させていただきます。

2. 研究目的・方法

本研究では、看護学生が安全かつ安楽にストレッチャー移送の技術を学べるように、VR（Virtual Reality）を活用した教材の効果を検証します。

現在、医療の高度化や患者の高齢化により、看護技術教育の重要性が高まっています。しかし、「活動の援助技術：ストレッチャー移送」では、ストレッチャーの台数制限や演習時間の制約により、すべての学生が十分に演習を体験できないという課題があります。

ストレッチャー移送は、身体が不安定な患者を安全・安楽に移動させるため、看護師2名が役割を担う必要がある重要な技術です。また、声かけの有無が患者の安心感にも影響することが知られています。

そこで、本研究ではVRを用いることで、臨場感のある演習を再現し、限られた設備や時間の制約を補うことが可能と考えます。VRは医療教育での活用実績もあり、看護基礎教育においても効果が報告されています。本研究の目的は、2025年度の基礎看護学方法論Ⅱで行った「活動の援助技術：ストレッチャー移送」のVR教材を通じ、演習前後にGoogle formを通じて、提出していただいた課題の記述から教育効果を明らかにすることです。本研究は、学内演習の限界を補い、看護技術教育の質向上に貢献することを期待しています。

3. 研究期間

昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2028年3月31日まで

4. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究に用いるものは、「活動の援助技術：ストレッチャー移送」の演習前後に Googleform を通じて、提出していただいた課題結果、皆さんの所属、学年、性別、ストレッチャー乗車の経験有無です。

5. 外部への試料・情報の提供

該当いたしません

6. 研究組織

研究責任者

昭和医科大学保健医療学部 鈴木 洋子

研究分担者

昭和医科大学保健医療学部 田中 晶子

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも学生さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和医科大学 保健医療学部 氏名：鈴木 洋子

住所：神奈川県横浜市緑区十日市場町 1865 電話番号：045-985-6530